

『農業後継者等支援事業』

宮崎県 都城市

本題のまえに... 都城市のご紹介

ふるさと納税

H27・H28・R2・R4・R5

日本一！

R5年度 寄付額 **194億円**

市町村別農業産出額

R1.R2.R3.R4

4年連続 日本一！

R4年 911億円

畜産部門 全国第1位

- 肉用牛 第1位 220億円
- 豚 第1位 283億円
- 鶏 第2位 229億円

焼酎売上高ランキング R5年度

霧島酒造 第1位 593億円
12年連続日本一！

都城ロゴ：書家 紫舟

幸せ上々、みやこのじょう
日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統



南九州第3の都市

鹿児島市・宮崎市に次ぐ人口16万人
九州・沖縄119市のうち、上位12番目
福岡・北九州・熊本・鹿児島・大分・長崎・宮崎・
那覇・久留米・佐世保・佐賀・都城・諫早・八代



地の利

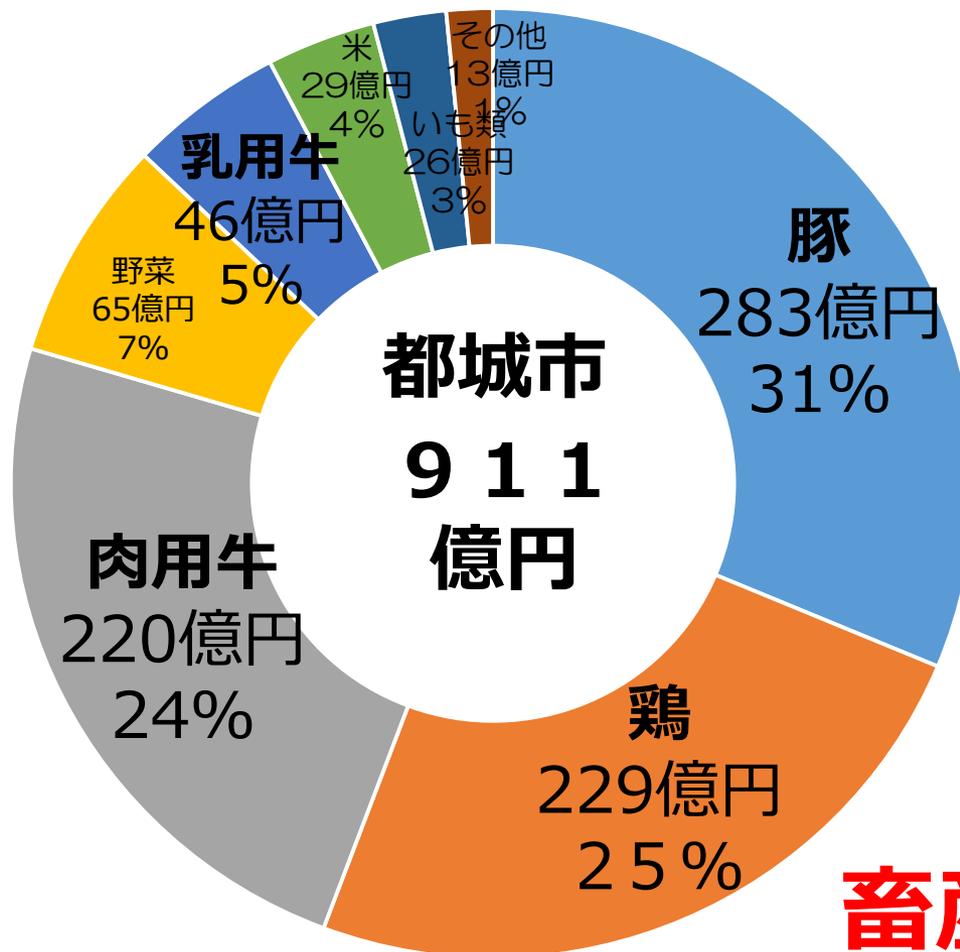
宮崎市と鹿児島市の間位置し、
宮崎/鹿児島両空港や、国際バルク戦略
港湾である志布志港や油津港も圏内。
『地域高規格道路都城志布志道路』は
R6に全線開通予定。

人口減少から人口増加へ

強力な移住支援により、R5移住者は
3,710人となり、13年ぶりに人口増加

■本市の農業について

【本市の農業産出額に対する各品目の割合（令和4年度）】



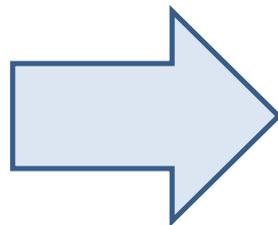
畜産が8.5割

■全国的な担い手の減少

○農家戸数

8,604戸
(平成22年)

約3,200戸減っている!!

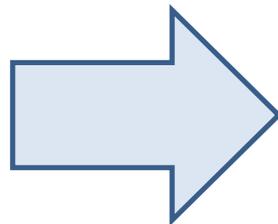


5,460戸
(令和2年)

○農家平均年齢

65.5歳
(平成22年)

1.5歳上がっている!!

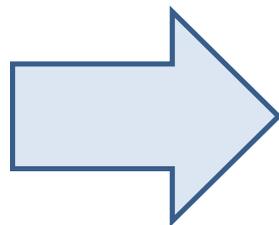


67.0歳
(令和2年)

○耕地面積

13,100ha
(平成22年)

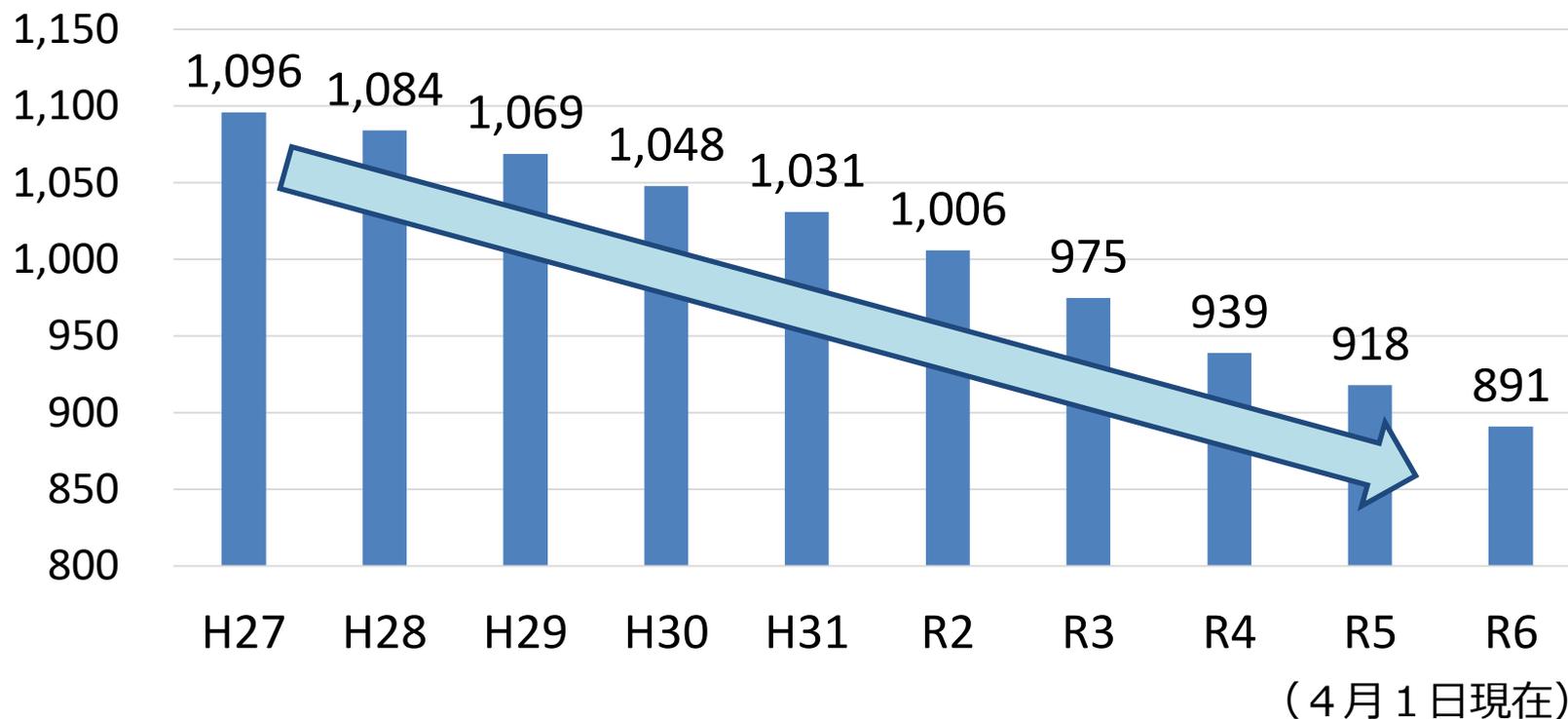
800ha減っている!!



12,300ha
(令和2年)

■本市の担い手

認定農業者数（経営体）



直近10年間で約2割（200経営体）の担い手が減少

■ 担い手の不足の理由

- 高齢化と後継者不足
- 収益性の低さと経済的不安定
- 労働環境の厳しさ
- 農業技術の継承の難しさ

etc・・・

「食」を守るために、「農業の担い手の確保」は急務

■本市の支援策

農業後継者・新規就農者支援

○ 都城市農業後継者等支援事業

就農直後の農業経営費などの一部を支援

○ アグリチャレンジ！「トラサポ」事業

営農活動に必要な車両購入費用を一部補助

その他

○ 都城市雇用就農者確保事業

営農環境改善に要する経費（休憩所、更衣室、シャワー等）の一部を支援

○ スマート農業促進事業

実証実験で効果の出たスマート農業技術を活用した機器の導入に関わる経費を一部補助

etc・・・

都城市農業後継者等支援事業（H28～）

| | 都城市農業後継者等支援事業 | 【参考】新規就農者育成総合対策（経営開始資金） |
|-----------|--|--|
| 内容 | 親元就農者の場合 年間60万円×2年間 新規参入者の場合 年間120万円×2年間 | 年間最大150万円 （最長3年間） |
| 要件 | ①申請時に56歳未満 ②農業に専業または、農業での 従事時間が年間1900時間 以上であること | ①独立・自営就農時の年齢が 50歳未満 ②5年後には、農業で生計が成り 立つ実現可能な計画があること 等 |
| 国県 補助等 | 市単独 | 国負担（全額） |

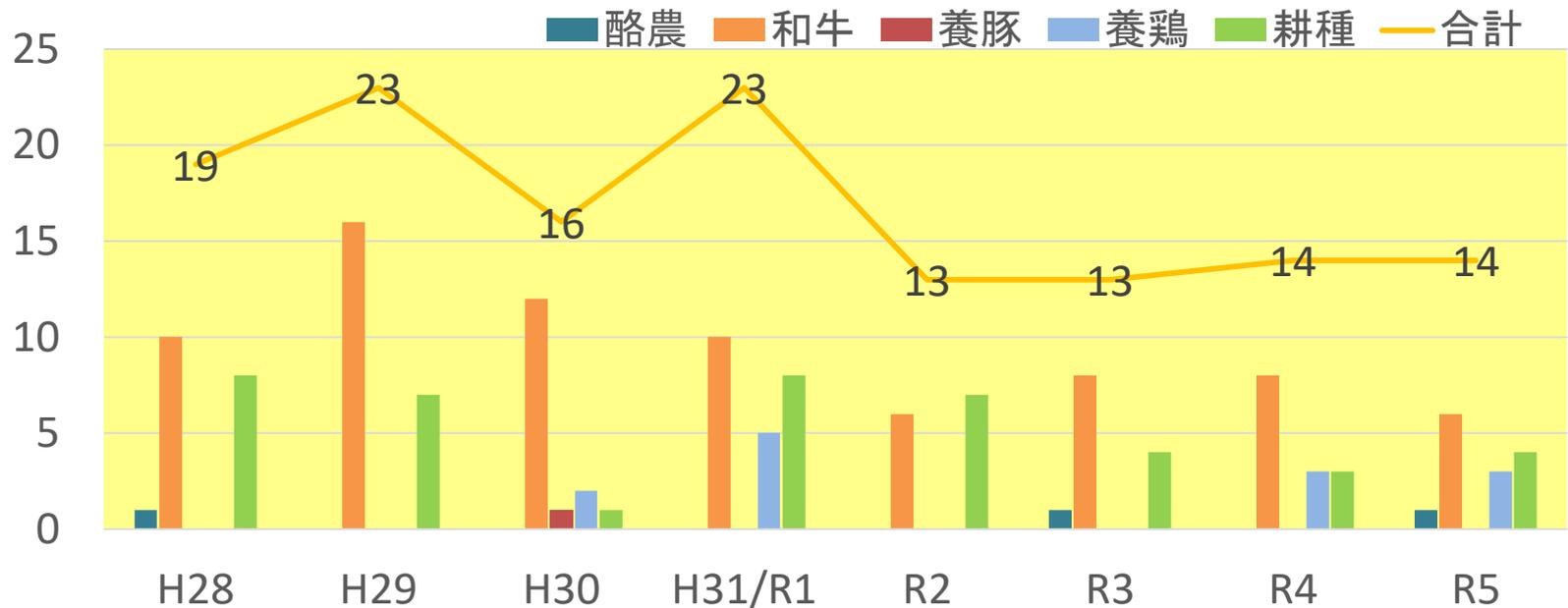
国事業の要件に合致しない親元就農者や新規参入者を支援！！

これまでの実績

| R5年度 事業費総額 | 親元就農者 | 新規参入者 |
|------------|--------------|------------|
| 18,850千円 | 29名 12,850千円 | 9名 6,000千円 |

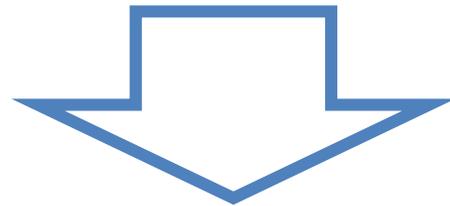
| 品目 | 酪農 | 和牛生産 | 和牛肥育 | 豚 | 養鶏 | 養蜂 | 露地野菜 | 施設園芸 | 水稻 | 合計 |
|-------|----|------|------|---|----|----|------|------|----|-----------------------|
| 人数(名) | 3 | 63 | 12 | 1 | 13 | 1 | 25 | 16 | 1 | 135 (事業費155,500千円) |

【事業活用者の品目別人数の内訳(人)】



■ 今後の課題

- ・コロナ禍以降、飼料や各種資材価格の高止まり、販売価格の低迷による厳しい農業情勢により、親元就農者を含めた新規就農者は減少している状況。
- ・一定規模の経営基盤の整った農業者については後継者があるものの、中小規模の農業者は離農する傾向。
- ・畜産業（特に、ブロイラー）については、親元就農者に加え、第三者承継による新規参入者も就農している。



これら課題を解決し・・・

**更なる担い手確保を目指し
全力で取り組んで参ります**